

姫路市史

全16卷

(本編6卷・史料編7卷・別編3卷)



発行 姫路市

発刊のことば

姫路市長 戸谷松司



姫路市は現在人口四十五万人を数え、播磨の中核都市として「活力ある人間性豊かな都市」をめざし多彩なプログラムを工夫実現しながら歩みを進めております。そして三年後の昭和六十四年には、市制施行百周年を迎えることになっております。

都市は住民の心ばえによってつくられていきます。心ばえは住民が抱いている歴史意識と生活感情であり、地域社会発展の活力の源泉となるものです。

播磨の心ばえを知るためには、瀬戸内の穏やかで豊かな自然と風土に育まれてきたこの地域の長い歴史的経過の中で、発展と停滞がどのようなになされてきたかを実証的にたどりながら、播磨の特質と動向をとらえることが必要であると考えます。

「姫路市史」第十巻史料編近世Ⅰには、徳川幕府の藩屏姫路藩の姿、いわば姫路の原風景を窺う史料が収録してあります。本書が広く読まれ、地域史研究の進展に寄与するとともに、姫路の発展を推しすすめる新しい抱負と活力が生みだされることを期待しております。

最後に編集・執筆にあられた各位のご苦労と、史料を提供して下さった方々のご好意に深く感謝の意を表するとともに、姫路市史編纂について一層のご尽力とご支援をお願い申し上げます。

第一回配本 昭和六十一年四月下旬

姫路市史 第十巻

史料編 近世Ⅰ 目次

1 姫路藩史料Ⅰ(池田氏→三次松平氏時代)

池田・本多・松平(奥平)・松平(結城)・榊原氏時代の姫路藩史料を、全国各地から集めて収めている。姫路藩領最大の一揆、寛延一揆の史料も収めた。

大名家譜 知行状・知行目録

地方知行・侍帳 慶長池田検地

藩法Ⅰ(家中法) 藩法Ⅱ(領民法)

治世記録・藩領大概

城下町絵図・城下大概

免状 財政・経済政策

寛延一揆

2 姫路藩史料Ⅱ(酒井氏時代)

姫路に定着した酒井氏の時代の藩政史料を収めている。姫陽秘鑑をはじめとする酒井家史料や、藩法集である姫藩典制録などを主史料とした。

老中奉書 藩主書状・書下 藩主系図・家譜

知行状・知行目録 家臣 藩法

藩領大概・城下町絵図 財政・経済政策

寺社・祭礼 文教

災害

明治維新

3 幕府・諸藩史料

市域を支配した、姫路藩以外の領主の支配史料を収めている。林田藩以下の地元諸藩や、大阪城代として市域に飛び地をもった大名たちの支配史料である。

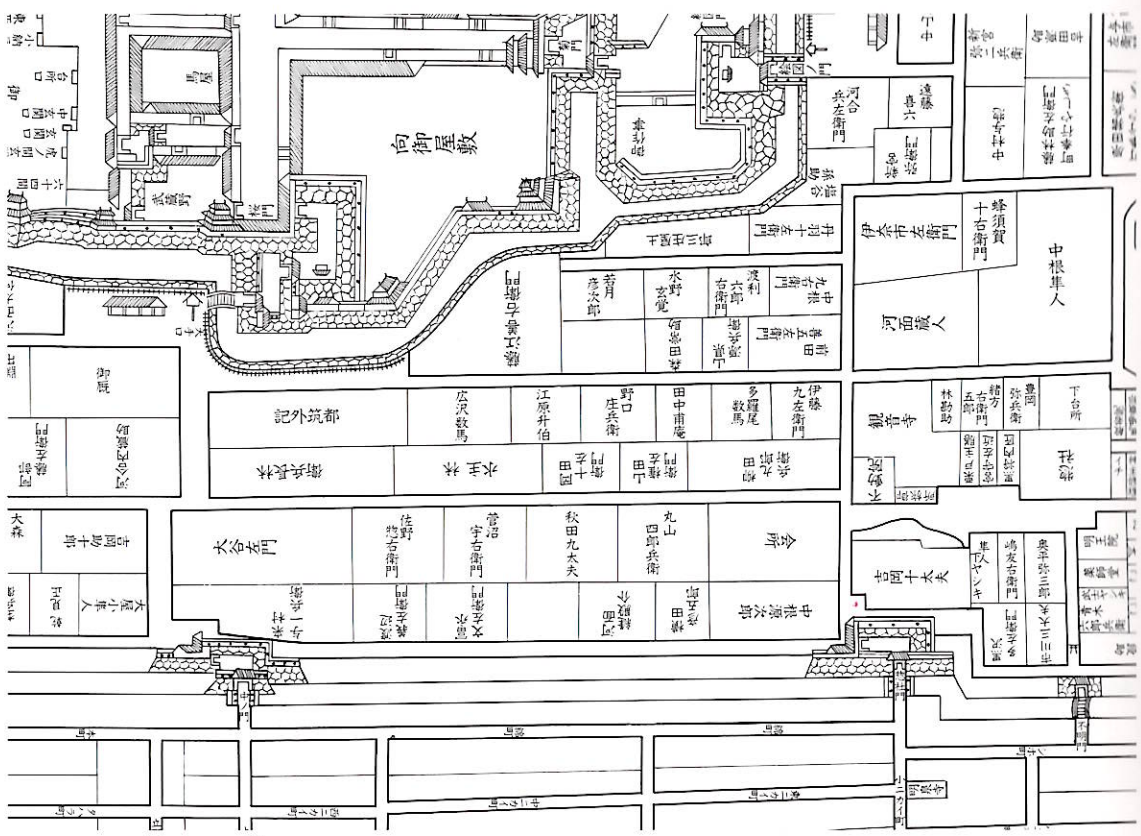
林田・新宮藩領
龍野・丸亀藩領
幕府領・幕府役職大名領

付図(別箱) 城下町絵図ヘカラー刷りと解説図

- 一 姫路城下町絵図 池田時代(一六〇〇〜一七一)
 - 二 姫路城下町絵図 一次榊原時代(一六四九〜一六七)
 - 三 姫路城下町絵図 二次松平時代(一六六七〜一八二)
 - 四 姫路城下町絵図 二次本多時代(一八八二〜一七〇四)
- (付記 第十一巻にも城下町絵図四点と解説図がつきます。)

組見本(約1/2)

<p>義政改修御免帳、年所約之不詳法、一付御知被上高七、 万石二、一應後日田へ被遣之旨正被書云云也、于時 直集公御四十一歳也</p> <p>此時、直集公、上ノ被為被於次之間儀之付リ御往日 付へ罷遊御被遊也、右命畢御遊出之御御往日行禮 而奉抄之也、畢直集公御遊出御門御御本御三 万石二、一應後日田へ被遣之旨正被書云云也</p> <p>三、本多御知行様 二、次、御知行様 播磨國飾磨郡之内六拾八箇村、備前之内六拾五箇村、 備前之内六拾五箇村、備前之内六拾五箇村、備前之内 内七拾六箇村、備前之内七拾九箇村、備前之内拾五 箇村、備前之内拾五箇村、備前之内家崎、備前之内 家崎、高松五万石御知行様、全可令御知者也、 御知行様 貞享二年九月廿一日</p>	<p>本多中務大輔(のり) 46</p> <p>三、本多御知行目録 二、本多御知行 備前之内六拾八箇村 備前之内六拾五箇村 備前之内六拾五箇村 備前之内七拾九箇村 備前之内拾五箇村 備前之内拾五箇村 備前之内家崎 備前之内家崎 高松五万石御知行様 全可令御知者也</p> <p>備前之内六拾八箇村 備前之内六拾五箇村 備前之内六拾五箇村 備前之内七拾九箇村 備前之内拾五箇村 備前之内拾五箇村 備前之内家崎 備前之内家崎 高松五万石御知行様 全可令御知者也</p>
--	--



解説図 部分 (大手口付近)



播州飾東郡国衙庄姫路図 部分（東京・財団法人静嘉堂文庫所蔵）

ここに掲げた写真は、第十巻の別箱に収める姫路城下町の絵図4葉のうちの1葉、二次本多時代（1682～1704）の絵図です。縦2.20尺、横2.00尺、薄い和紙に書かれ、浅く色がつけられています。

現物でも小さい字は見えにくいので、添付した解説図が大いに役立つことと思います。

町家の部分や足軽町、外堀の外部分は簡単

に描かれていますが、侍町の部分には一軒一軒住んでいる家臣の名が書かれています。当時の分限帳（家臣禄高帳）と照合して、どの程度の知行、どんな役職の人がどのあたりに住んでいたかが明らかになります。これらの分析は本編・別編「姫路の城」に譲りますが、皆さん、8葉の付図を時代順に並べて姫路の町の移り変わりをみてください。

執筆者一覽(第一期事業)

●監修 八木 哲浩 (神戸大学名誉教授)

●市史編集専門委員

近世 今井 修平 (神戸女子大学助教授)

〃 三浦 俊明 (関西学院大学教授)

〃 八木 哲浩 (神戸大学名誉教授)

近現代 大島真理夫 (大阪市立大学助教授)

〃 小野寺逸也 (尼崎市立地域研究史料館館長)

〃 小森 星児 (神戸商科大学教授)

〃 須崎 慎一 (神戸大学助教授)

〃 鈴木 正幸 (神戸大学助教授)

〃 宮川 秀一 (大手前女子大学講師)

●特別編集委員

城郭 内藤 昌 (名古屋工業大学教授)

●特別執筆者

宗教・城郭 石田 善人 (岡山大学教授)

文化 木村 勲 (朝日新聞記者)

〃 竹下喜久男 (仏教大学教授)

塩業 広山 堯道 (赤穂市立塩業資料館運営委員)

(五十音順)

市史を編集するにあたって

姫路市史編集専門委員会 委員長 八木 哲浩

姫路市は、昭和三十年に市史第一巻(地理編)を刊行して以来、昭和五十五年までに本編三巻・史料編一卷を出して来ました。そして叙述は中世末に及んでいます。それをうけて私たちの委員会は、それにづく近世から現代までの市史の編集を担当します。

ただ既刊の第一巻などは、市域がまだ半分以下であった、随分まゑに書かれたものです。このため、近現代が済んだあと、第二期事業として、再び第一巻に戻って古い時代の歴史を編み直すことになっていきます。

まず近世に筆を起し、農村部、市民生活にまで踏み込んでいきますが、さしあたり本巻では、市域いな播磨の中核をなした姫路の城と城下町が主舞台です。ここは、中心部が早く明治期に軍隊施設区域となつて旧態を失い、さらに戦災に遭つてその面影をほとんど失つてしまいました。しかし幸い無傷で残つた城が戦後いち早く修復され、また近年とみに環境を取り戻しつつあります。そして今日なおこの城が、大きく広がつた姫路市の素晴らしい象徴でありつづけていることは喜ばしいかぎりです。

姫路市が厚みと個性のあるまちに発展していくためには、市民の活力もさることながら、その底に歴史と伝統を踏まえることが大切です。市史が歴史をよみがえらせ、市民の皆さまの知的かてとなり、住むまちの新しい将来像を求めるために役立つことを願っております。

■全巻構成

本編※第一巻 地理・地質・考古

※第二巻 古代・中世

第三巻 近世Ⅰ

第四巻 近世Ⅱ

第五巻 近現代Ⅰ

第六巻 近現代Ⅱ

史料編※第七巻 地理・地質・考古

※第八巻 古代・中世Ⅰ

※第九巻 中世Ⅱ

第十巻 近世Ⅰ 付図(別箱)

第一回配本

第十一巻 近世Ⅱ 付図(別箱)

第十二巻 近現代Ⅰ

第十三巻 近現代Ⅱ

別編 第十四巻 姫路の城

第二回配本予定

第十五巻 民俗・文化財

※第十六巻 年表・索引

注※は第二期事業として刊行予定

第十巻 購読申込みについて

●本のかたち A5判、約九五〇頁、上製本。用紙は中性高質紙、

表紙は別染(青色)の高級装丁用織物を使用。

●頒 価 六、三〇〇円

●申込方法

●予約締切

●頒布方法

昭和六十一年四月二十一日

直接受取・郵送のいずれかでお渡しします。

●申込先

〒六七〇〇〇二 姫路市本町六八・二五八 日本城郭研究センター内

姫路市立城内図書館 史料整理室 Tel.〇七九・二八九・四八八六

